

あかね

令和7年2月7日(金)発行
薩摩川内市立川内北中学校

自主 友愛 奉仕 鍛錬

文責：校長 感王寺 等

今を懸命に生きる

積雪の対応に追われた一週間でしたが、大きな事故もなく安堵しました。今週の5日(水)から学年末テスト前の部活動停止期間(宅習強化週間)に入っていますが、生徒の皆さんはどんな生活をしているのでしょうか。2学期の期末テスト前の学習時間調査では、テスト期間中にもかかわらず目標時間(1年100分・2年110分・3年120分)を超えた生徒の割合は、次の表の通り残念な結果でした。

	1年	2年	3年
達成率	32.7%	62.9%	73.9%

学級でも指導されたはずですので、今回はその反省を生かして取り組んでいるものと思います。また、前記の学習の目標時間は、部活動のある平日のものです。テスト期間中であれば部活動もなく家庭で過ごす時間が長いわけですから、1日3時間程度の学習時間は容易に確保でき、目標時間を軽くクリアすることが望まれます。今やるべきことに取り組む力こそが生きる力であり、自己実現を図るために必要です。苦手な教科があっても、挑戦することが大切です。今週末と11日の祝日を生かし、最大限の努力で最後のテストに挑戦し、有終の美を飾りましょう。結果より過程が大切。気張れ北中生！



優しさ学ぶ「がん教育」

先月30日(木)、がんサポートセンターかごしまの三好綾先生を講師に招き、2年生のがん教育を実施しました。ご自身の闘病生活をもとに話しをされ、生徒達も感じるどころがあったようです。



【生徒の感想より抜粋】

- ・ 講師の届けてくださる言葉一つ一つが本当に優しく温かくて、今の自分の命があることってありがたいことなんだなあと改めて感じました。「そのままで金メダル」という言葉が心に残り、ありのままで良いと言ってもらっているようで、心がじんわりしました。
- ・ がんになっても前向きにという内容だったので、自分が辛いことがあったときに今日のことを思い出して、ポジティブに変換しようと思いました。がんに対するイメージが、がらりと変わりました。

“はたらく”を考える

ワークショップ

今週の4日(火)、キャリア教育の一環として1年生を対象に“はたらく”を考えるワークショップを実施しました。講師は(株)パーソナルキャリアの馬場瑞紀先生で、日本各地でキャリア教育の講師として活躍されています。今回のワークショップは、本校としても初めての取組でしたが、雪の舞う寒い体育館ながら、子ども達は意欲的に活動していたようです。



現在の日本に19,000種類の仕事があることや、世の中がどう変化しているのか、その変化で仕事はどう変わるのか、働くことはどんな意味があるのかなど、講師の話を聴いたり、考えたりしました。1年生にとって、働くことはまだ先のこともかもしれませんが、働くことの意味を考える動機付けにはなったのではないかと思います。また、今回の学習で、自分のことは自分で決める、自分で決めたことに責任を持つことも学んだ1年生ですので、進級に向け0運動も継続できるように、益々成長することと期待しています。

2月の一事徹底

授業は命 掃除は心

～ 3つの黙 ～

今年度も残り2ヶ月となり、成長を実感して1年間を締めくくってほしいと願っています。そのためにも、1日1日を大事にしてほしいものです。

さて、本校の目標である「自律」は、自分で自分を正しく自己管理することでもあります。朝読書や朝学習に静かに取り組み(黙学)たり、授業前の黙想で休み時間と授業時間のけじめを付けたり、無言清掃で黙々と汗を流し、心を磨いたりすることは、周りへの気遣いでもあり、自律した姿でもあります。当然のことながら、学校は学ぶ場です。1年で一番短い2月ですが、学校生活の日常でやるべきことを大事にし、総仕上げの3学期へ向かいましょう。



メディア等の使用は、平日1時間以内を目標に。

内田先生の講演より

先月の30日(木)に国際交流センターで開催された川薩地区学校保健・安全研究会へ参加してきました。その際、拝聴した内田美智子先生の講演が大変有意義なものでしたので、保護者の皆さんへお伝えしたいことを抜粋して紹介します。



【内田美智子先生のプロフィール】

3000人以上の赤ちゃんの出産に立ち会ってきたベテラン助産師であり、思春期保健相談士でもある。年間100回の講演活動を行い、命の尊さを伝え続け、反響を呼んでいる。病院では若いお母さんを支えるための幼児クラブを主宰し、分娩介助や母乳外来でも勤務している。

九州思春期研究会設立・事務局長
福岡県家庭教育アドバイザー

- ・ 子どもは育てられたように育つ。子どもが変わったのではなく、育てる大人が変わった。
- ・ 今でも年間30人は出産で母親が亡くなるケースがある。母親は命がけで子どもを産むことに変わりはない。
- ・ 子どもにとって大人の影響は大きい。あの人がいたから生きてこれたと、子どもに思わせる大人が必要である。
- ・ 子どもが道を踏み外さないためには、子どものお守り袋に母親の笑顔があるかどうかである。
- ・ 子どもは見たこと聞いたこと体験したことを記憶にとどめている。それが生きる力となる。
- ・ 家庭で、ありがとう、ごめんなさいの言葉がないと、子どもはその言葉を言えない。
- ・ 暴力や暴言で脳は変形する(脳が育たない)。また、暴力を受けることより、暴力を見ることの方が、子どものダメージは大きい。
- ・ 「こんなこともできないのか」「産まなきゃ良かった」など、他者と比べて侮辱する言葉は、子どもにとって怖い言葉であり、親だからと言って許されることではない。
- ・ 親がスマホを見て子どもを放ったらかし、または、スマホを与えっぱなしでは、子どもは育たない。
- ・ 人間は見たくないものを回避するので、見えない、聞こえない、感じないように脳が変形する。
- ・ 養育する大人の愛着を再形成すれば、成長の遅れは回復する。
- ・ 子育ては自己犠牲の上にしか成り立たない。
- ・ 手を離しても、見守ってくれる人がいる安心感が子どもにあるかどうかが大変である。

- ・ 最終的には食が大事。ちゃんと食べさせていないと、悪人にだまされ性につまずく。
- ・ 惣菜も皿に移したり、レンジで温めたり、忙しくても、ちょっとした手間や愛情のふりかけをかけられるかどうか。



- ・ 家事手伝いをさせないと、子どもは育たない。何もできないまま大人になると、子育てできない大人(親)になる。
- ・ ほったらかしや、重圧に苦しむ心のひもじい子が増えた。子どもの問題は、大人の問題である。
子どもが幸せな人生を歩めるかどうかは、周りの大人の関わり方次第であり、ちょっとした苦勞の差で大きく変わることを感じました。

2年PTA登下校指導

先月の29日(水)～31日(金)、2年PTAの登下校指導を実施していただき、誠にありがとうございました。いただいたご意見を紹介します。

○ 良かった点

- ・ 29日下校時に行きました。私が挨拶するとみんな元気よく挨拶してくれて、とても気持ちが晴れやかになりました。
- ・ 男子も女子も挨拶してくれて、寒い中でしたが嬉しい気持ちになりました。
- ・ 皆、交通ルールを守り、挨拶を交わすこともでき非常に良かったと感じています。
- ・ 声をかけたらきちんと挨拶してくれて礼儀正しいと思いました。
- ・ 元気に挨拶してくれました。
- ・ 生徒から進んで挨拶してくれました。



△ 心配な点

- ・ 挨拶してくれる子がほとんどでしたが、中には下を向いて歩き続ける子もいました。
- ・ 挨拶したら会釈したり、停車した車に会釈したりする子もいましたが、挨拶しても素通りする生徒もいました。
- ・ 8時前ギリギリな子を見かけました。焦っているようでしたので、気を付けてと声をかけたら、「はい」と返してくれました。

× 悪かった点

- ・ 下校の様子を見て、全体的に挨拶、会釈をしている生徒が少なかったです。全体的に挨拶の指導を行った方がいいと思います。
- ・ 下校時ですが、ほとんどの子の挨拶がありませんでした。
- ・ 目は合うが、挨拶してくれる子は少なかった。
- ・ 数人で話しながら、歩道いっぱい広がって登校していました。

※ 生徒の皆さん、あなたの姿はどれでしょう。
また、どの姿が望ましいでしょうか。

家庭での挨拶を励行し、地域でも元気よく実践を！